

令和2年度(2020年度)

管理事業名	公平委員会事業			総合計画の体系	大綱 - 政策 - 施策 -	-	
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 7	公平委員会費
部局名	公平委員会事務局	予算執行所属	公平委員会事務局				
予算大事業名	公平委員会事業						
公平委員会事業		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
<b>事業の目的と概要</b> <b>【目的】</b> 中立的機関として職員の利益の保護及び公正な人事権の行使を保障するとともに、公正な人事行政の維持と確保を図るため公平委員会事業を実施します。 <b>【概要】</b> 公平委員会運営事業(職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する措置の要求を審査・判定し、必要な措置を執ること、職員に対する不利益な処分についての審査請求に対する裁決を行うこと、勤務条件その他人事管理に関する職員からの苦情相談の処理を行うことなど)							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
公平委員会の開催日数	日	12	12	8	委員会の開催日数
成果の説明	・委員会を原則月1回開催し、審議等を行いました。令和2年度においては、審議案件がない月には、書面報告を5回行いました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常収入 小計(a)	-	-	-	-
<b>給与関係費</b>	<b>9,005</b>	<b>9,022</b>	<b>9,470</b>	<b>448</b>
物件費	198	218	71	△147
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	116	115	106	△9
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	-	-	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	522	527	526	△1
退職手当引当金繰入額	450	128	232	104
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	10,292	10,010	10,405	395
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△10,292	△10,010	△10,405	△395
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△10,292	△10,010	△10,405	△395
一般財源充当額	10,378	10,341	10,642	301
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	86	332	237	△95

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費等	職員人件費 5,717千円(△26千円) 会計年度任用職員給与 2,487千円(+474千円) 委員報酬 1,266千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	-	-	-
行政サービス活動支出	10,378	10,341	10,642	301
行政サービス活動収支差額	△10,378	△10,341	△10,642	△301
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△10,378	△10,341	△10,642	△301
一般財源充当額	10,378	10,341	10,642	301
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人当たりのコスト	平成30年度	371,030 人	28 円	市民1人あたり28円のコストがかかっています。 令和3年3月31日現在の吹田市の人口で算出しています。
	令和元年度	373,978 人	27 円	
	令和2年度	376,944 人	28 円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	527	526	△1
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	527	526	△1
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	-	-	-	有形固定資産	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	4,982	4,746	△236
建物・工作物	-	-	-	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	4,982	4,746	△236
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	5,509	5,272	△237
土地	-	-	-	純資産	△5,509	△5,272	237
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	△5,509	△5,272	237
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	-	-	-	負債及び純資産の部合計	-	-	-

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

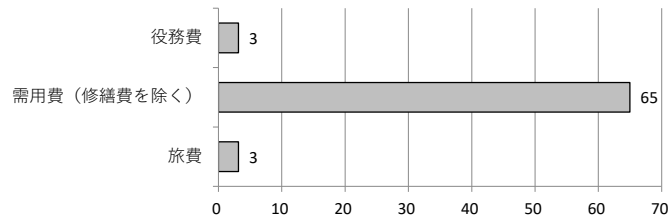
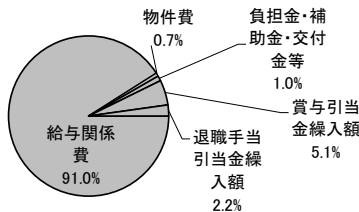
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	0.8人	243日	39日	10,228
給与関係費等	6,475千円	2,487千円	1,266千円	
内、時間外勤務手当	0千円			

貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		100.0	100.0	100.0	0.0

▽その他特記事項

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

事業に係るコスト全体の98.3%が、人件費です。  
事業の財源は、すべて一般財源となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

令和2年度は、勤務条件に関する措置の要求について、令和元年度からの継続分の審査及び判定を行いました。また、職員からの苦情相談は7件ありました。  
毎年度、苦情相談が寄せられており、近年では、不利益処分に関する審査請求及び勤務条件に関する措置の要求も寄せられています。さらに、令和2年度からは、地方公務員法の改正に伴い会計年度任用職員制度が新たに創設されたことにより、相談件数が微増しています。  
公平委員会は職員の利益の保護と公正な人事権の行使を保障するための公正・中立な第三者機関として、その役割がますます重要になると考えられます。